

2—4 単元の設定

(1) 防災に関連した内容

各教科・領域には防災に関連した内容が散在しており、それらを統合して学年ごとに新たな防災単元の設定を行っていく。単元の開発にあたっては、社会、理科、体育、家庭、生活、総合的な学習の時間、道徳、特別活動の教科部会ごとに分かれて、防災教育に資する内容を確認することから始めた。

〈参考資料〉

学習指導要領，教科書，準教科書，副読本，指導書，仙台市新防災教育副読本，七郷小学校教育計画「防災教育年間指導計画」，杜の都の学校教育「新たな防災教育」等

防災関連の内容			
教科・領域		学年	
単元名	(時間扱い)		
内 容 :			
意 見 :			

(2) 防災単元の作成にあたって

各教科部会から出された防災関連の内容を学年ごとに整理し、それをもとに防災安全科における単元案として構成していった。

◆作成に向けて

- ・こんな単元が設定できそうだ，という素案の段階で，1次案では，考えられる単元をいくつか作成してもよい。逆に，学年によっては年間20時間を埋めるだけの単元数を作成するのが難しい場合もあるので，それに満たなくてもよい。
- ・年間20時間の中に1単位時間単発の内容を詰め込むよりも，組み合わせた単元のまとまりとして考えていく。(1単元2～6時間程度の想定)
- ・1つの教科・領域のみで単元を創設するのではなく，複数の教科・領域を組み合わせる。

低学年の場合 : 生活，学級活動，道徳

中学年の場合 : 総合的な学習の時間，(理科)，社会，学級活動，道徳

高学年の場合 : 総合的な学習の時間，理科，社会，家庭，体育，学級活動，道徳

特別支援の場合 : 生活単元学習，総合，体育，道徳

◆防災単元作成の参考例

〈例1〉 総合的な学習の時間を中心とした単元

総合「未来の七郷まちづくり」に防災の視点やコミュニティの大切さを加えることにつながる単元として設定する。道徳の思いやりや協力の価値観を関連させ，防災にも役立つ「これからの社会におけるコミュニティ作り」を考えさせたい。

防災単元カード (年)	
氏名 ()	
単元 テーマ	
想定時数	() 時間
教科 (時数)	
資質 能力	
具体的な 学習活動	1 2 3

防災関連カード		カード番号 1 6	
教科	総合	学年	6 年
単元	未来の七郷まちづくり (3 0 H)		
内容	今までの地域学習をもとにして、将来の「まち」の姿はどうある～		
意見	防災はこの活動の 1 つの視点なので、ここ～		

防災関連カード		カード番号 1 4	
教科	道徳	学年	6 年
単元	しらんぷりはできないよ (1 H)		
内容	思いやり。体の不自由な人に出会ったときの行動について考える。		
意見	災害にあったときにも様々な場所で様々～		

防災単元カード (6 年)		氏名 ()
単元 テーマ	防災にも役立つコミュニティの姿を これからの町の姿に提案する。	
想定時数	4 時間扱い	
教科 (時数)	総合 1 6 「まちづくり」(3) 道徳 1 4 「しらんぷり」(1)	
資質 能力	力) ③思いやり 力) ⑥これからの社会	
具体的な 学習活動	1 思いやりの心を持って接する大切 さを学ぶ。 2 地域コミュニティの活動を調べる。 3 未来へのアイデアを練る。	

〈例 2〉 防災関連の内容でつなげた単元

扱うべき自然災害が多いので、4 年生で地震と津波、5 年生でそれ以外の自然災害等に分けて学習する。理科と社会の防災関連の内容をつなげ、それに備えや身を守る方法を加えて 1 単元とする。各教科の単元のどの部分・時数を移行するか。

防災関連カード		カード番号 2	
教科	社会	学年	5 年
単元	国土の気候の特色 (1 H)		
内容	台風や梅雨が大雨をもたらす。洪水を引き起こすことを学び、その対策		

防災関連カード		カード番号 4	
教科	理科	学年	5 年
単元	天気の変化 (9 H)		
内容	雲の形や量、動きが変わると天気が変わる。天気の変化に決まることがある。		

防災関連カード		カード番号 5	
教科	理科	学年	5 年
単元	台風と天気の変化 (4 H)		
内容	台風による天気の変化を知る。台風の進路を予想する。台風の災害につ		

防災関連カード		カード番号 1 6	
教科	学級活動	学年	5 年
単元	災害のとき (2 H)		
内容	災害の恐ろしさ、災害があったときの対処法、避難の仕方、災害への備		

防災単元カード (5 年)		氏名 ()
単元 テーマ	台風や大雨などによる災害や対策を 理解し、身を守るための的確な行動を 考える。	
想定時数	6 時間扱い	
教科 (時数)	社会 1 「川に囲まれた土地」(1) 社会 2 「国土の気候の特色」(1) 理科 4 「天気の変化」(1) 理科 5 「台風と天気の変化」(2) 学活 1 6 「災害のとき」(1)	
資質 能力	ア) ②災害発生メカニズム エ) ④身を守る	
具体的な 学習活動	1 それぞれの災害の特徴やもたらす 被害を知る。 2 対策を理解し、日常の備えを考 える。 3 的確な行動の仕方を考える。	

〈例 3〉 社会の地域学習を中心とした単元

3 年生社会の地図を扱う学習をもとに構成する。学校から自宅までの通学路、子ども 1 1 0 番の店、避難場所、公園等を確認して絵地図等に表現し、登下校の途中で災害に遭遇した際に、どう行動すればいいかを考えさせる。作った絵地図は低学年で活用する。社会科の「学校のまわり」(1 2 H) からどの部分を何時間移行できるか。

防災関連カード		カード番号 2	
教科	社会	学年	3年
単元	学校のまわり (12H)		
内容	身近な地域や市の様子から学習問題を見出し、観察、調査したり地図にまとめたりする。		
意見	学校のまわりの探検で道路の様子や防災設備等の場所を確認させる		

防災関連カード		カード番号 5	
教科	学級活動	学年	3年
単元	安全な登下校 (1H)		
内容	登下校のときに起こりうる危険について考え、安全に登下校するために必要な態度を話し合い、身を守る方法を自分で選べる～		
意見	登下校時に災害が起こった場合の対処について取り扱うことが～		

防災単元カード (3年)		氏名 ()
単元テーマ	通学路や避難場所等を確認して、登下校で災害にあった際の行動を考える。	
想定時数	6時間扱い	
教科 (時数)	社会 2 「学校のまわり」 (5) 学活 5 「安全な登下校」 (1)	
資質能力	イ) ⑦ 避難場所、施設の把握 オ) ⑪ 場所等に応じた的確な判断と行動	
具体的な学習活動	1 通学路、子ども 110 番の店、避難場所、公園等を調べる。 2 絵地図に表現する。 3 登下校で災害にあった際の行動を考える。	

〈例 4〉 低学年での技能と態度を関連させた単元

生活での単元「まちのすてき」に学級活動や道徳を関連させて構成する。登下校中に災害に遭遇したときに、助けてくれる人（店）を確認させ、助けを呼ぶ方法を身に付けさせる。さらに、子どもたちの安全をふだんから見守ってくれる人たちに感謝の気持ちを表現させ、つながりを持たせたい。

防災関連カード		カード番号 3	
教科	生活	学年	2年
単元	聞いて聞かせてまちのすてき (1H)		
内容	町たんけんで見たり聞いたりした中で、災害時に役に立つ場所や助けてくれる人がいることを伝え合う。		
意見			

防災関連カード		カード番号 8	
教科	生活	学年	2年
単元	あしたへジャンプ (1H)		
内容	自分たちの安全のために見守ってくれている人に気づき、「ありがとう」を届ける。		
意見			

防災単元カード (2年)		氏名 ()
単元テーマ	災害に遭遇したときに助けてくれる人を知り、助けを呼ぶ方法を身に付ける。感謝の気持ちを表現してつながりを持つ。	
想定時数	4時間扱い	
教科 (時数)	生活 3 「まちのすてき」 (1) 学活カードなし (1) 生活 8 「あしたへジャンプ」 (1) 道徳カードなし (1)	
資質能力	エ) ⑤ 助けを呼ぶ方法 カ) ③ 感謝の気持ち	
具体的な学習活動	1 災害に遭遇したときに助けてくれる人を知る。 2 助けを呼ぶ方法を身に付ける。 3 感謝の気持ちを表現してつながりを持つ。	

◆単元の設定と時数の移行について

研究仮説で示したとおり、教科・領域等に分散していた防災教育を中心とした安全教育に関連する内容を統合した領域・防災安全科を創設する。よって、防災安全科は、理科・社会科的な知識や保健・家庭科的な技能などの『教科の要素』と総合的な思考・判断や道徳的な価値・態度などの『領域の要素』を併せ持った、新領域として創設される。

○できるだけ内容ア)～カ)に偏りがないように留意する。ただし、学年内あるいは学年部内で具体的な内容のすべてを網羅することはできないので、今後、どの学年でどの内容を扱うかを明確にしていく。

○単元の中で扱う学習内容を詰め込み過ぎの傾向があるので、育てたい資質・能力は何かを明確にし、内容を精選する。

○同学年部の中で内容に重なりが見られたので、どちらの学年で扱った方が効果的かを検

討して重なりをなくす。ただし、繰り返し取り上げた方がよい場合は、両方の学年で行うこととする。

○単元の設定と時数の移行にあたっては、特定の教科等に限定されてしまうと、その要素が強くなってしまい、その教科等への影響も懸念される。内容を含めて時数の移行においても、特定の教科等への偏りがないように留意していく。

○1つの教科のみから防災安全科の単元として作成した場合、教科で扱う場合とどこが違うのかを明確にしなければならない。

Ex) 教科にあった防災関連の内容に、発展的な内容を加えた等

○どの教科等にも内容がないので、新たに発展的な内容を加えた場合、主に学級活動から時数を持ってくるという事例が見られた。防災に関連する学級活動の内容は、以下のものに限られる。

学習指導要領解説・特別活動編より

《学級活動の内容》

(2) 日常生活や学習への適応及び健康安全

ア 希望や目標をもって生きる態度の形成 ← 共助に関わる内容

ウ 望ましい人間関係の形成 ← 共助に関わる内容

カ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成 ← 自助に関わる内容

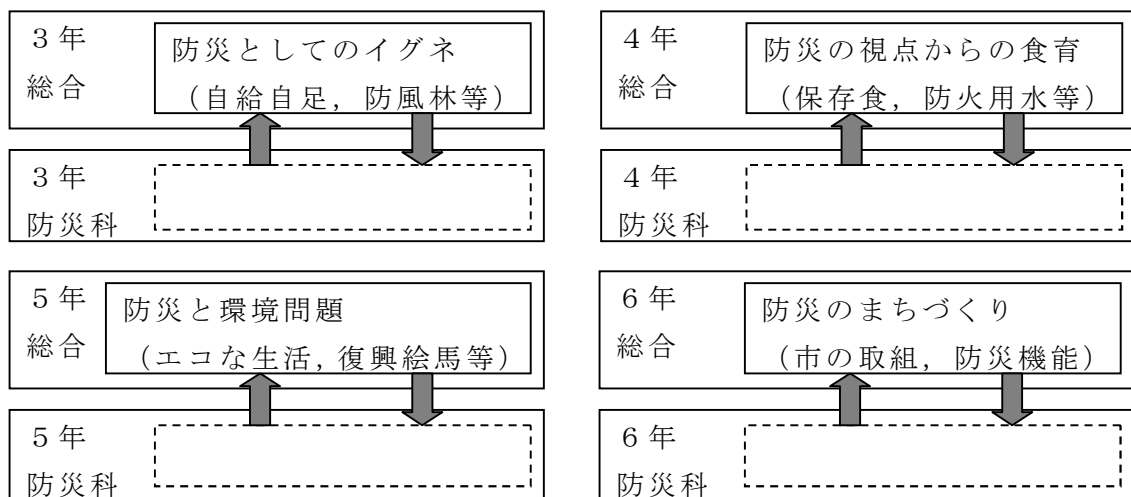
教科等に内容がないので、学級活動から移行してしまうと、「防災安全科＝学級指導」的な要素が強まること懸念される。新たに発展的な内容を加えた場合は、理科、社会、総合的な学習の時間、道徳など、その発展的な内容がどれに近いかで、移行する教科等を決めるように留意する。

○学校行事からの移行は、現段階では想定しない。今後、学校行事との関連を図っていく。

◆総合的な学習の時間からの移行について

普遍性の中にある程度の地域性を含めていくために、各学年の総合的な学習の時間で行われている地域学習（復興学習）から内容を考えていく。現在の総合的な学習の時間に防災関連の内容があれば、そのまま移行することは可能だが、ない場合は、一度、総合的な学習の時間の中に防災の視点を取り入れてみて、防災＋地域学習の内容を考え、それを防災安全科の単元として設定する。

《例》総合的な学習の時間からの移行



◆その他の教科からの移行について

移行する教科等は，社会，理科，体育，家庭，生活，総合的な学習の時間，道徳，特別活動（学級活動）に限定した。それ以外の教科からの移行については，下記の事例のようなことを考えながら検討していく。

《例》4年国語「みんなで新聞を作ろう」（書く活動）の場合

- ・先に防災安全科において新聞を制作した後，国語の本単元を読むだけで終わらせてしまうのは，教科のねらいが達成できない。
- ・国語の本単元を学習した直後，あるいは同時並行で防災安全科において新聞を制作するのは，可能かもしれない。
- ・防災安全科においての新聞制作の時間は，国語の表現としての指導（書き方，見出し，レイアウト，資料の効果等）は多少入ると思われるが，評価はあくまで，そこに表現された防災の内容（防災安全科の資質・能力）で行うようになる。

(3) 各学年の防災単元案

学年	学習活動（単元）	時数	領域と内容	教科等からの移行
1	(1)「ぼくたちのつうがくろ」 いつでも安全に登下校しようとする態度を育てる。	6	ウ) ③⑤ オ) ② カ) ②	生活 3 行事 1 道徳 1 学活 1
	(2)「これからもよろしく」 子ども 110 番の家・店について知り，地域とのつながりを持つ。	4	イ) ② エ) ④	学活 4
	(3)「ぼくを見つけて！かくれんぼ」 「見つけてかくれんぼ」で遊ぶ中で，相手に伝わる表現の仕方を考える。	3	イ) ⑧ エ) ④	学活 3
	(4)「わたしもがんばる」 家庭や避難所で自分にもできることを考え，家族の役に立とうとする心情を育てる。	7	イ) ⑦ オ) ①③⑦ カ) ⑥	生活 5 道徳 1 学活 1
2	(1)「防災って何？」 自然災害の種類，及び，身の守り方について知る。災害の備えについて知る。体験する。	6	ア) ① イ) ⑥⑦ ウ) ⑤	体育 2 学活 4
	(2)「防災ウォークラリーに行こう」 学校のまわりにある防災に関わる施設や設備，表示などを探る。	7	イ) ④⑤	生活 5 道徳 2
	(3)「手をつないで」 緊急時に備えて守らなければならない約束事や伝えなければならない情報を確認する。(家族) 地域の方々と関わりながら，関係を深める。(地域)	7	エ) ④ オ) ②	生活 4 道徳 1 学活 2
3	(1)「防災お役立ちマップ」 地図作りを通して地域の様子を知り，非常時の行動に役立てられるようにする。	8	ア) ①② イ) ①③⑤ オ) ④	社会 4 道徳 1 学活 3
	(2)「自分で決める」 自分の安全を確保する意識を持ち，実際に行動できることを目指す。	5	ウ) ③④⑤ エ) ①②	社会 1 学活 4
	(3)「ふるさとを元気に，自分たちにできること」 先人が守ってきたふるさとの良さに気付いて，未来に繋げていくための防災の意識を共有する。	7	オ) ②④⑦ カ) ③⑤⑦	社会 3 道徳 1 学活 1 その他 2

4	(1)「地震が多い？私たちの宮城県」 東日本大震災を振り返り、これまでの歴史を知ること、生活で気を付けることを知る。	4	ア) ①④ イ) ①	社会 2 道徳 1 学活 1
	(2)「命をつなぐ保存食」 地域の農家に伝わっている保存食を調べ、家庭でできる備えについて考える。	8	イ) ⑦ カ) ②	総合 6 学活 2
	(3)「災害発生!!～暮らしに生かそう」 災害時の行動を家族と話し合い、災害時の行動や対応について考える。	6	イ) ⑤⑦⑧ ウ) ⑥ エ) ①	社会 1 体育 1 総合 2 学活 2
	(4)「広げていこう 地域の『わ』」 ボランティア活動について知り、地域のためにどんなことができるか話し合い、実践する。	5	カ) ②⑤⑦	総合 2 道徳 1 学活 2
5	(1)「学ぼう 私たちの星 地球」 気象災害の種類と原因、対策を知るとともに、災害から身を守る方法について考える。	4	ア) ① イ) ③ ウ) ⑤	社会 2 理科 2
	(2)「守ろう 私たちの命」 緊急時に使用する施設や設備の役割や避難の仕方を理解し、緊急時に際しての準備や心構えを身に付ける。けがをしたときの簡単な手当ができるようになる。	8	イ) ③⑤⑥⑦ ウ) ⑤	学活 4 家庭 2 体育 2
	(3)「考えよう 自分の行動」 災害場面を想定して、様々なテーマで話し合い、自分の行動について考え、災害に立ち向かい、克服しようとする強い心を養う。	2	イ) ③ オ) ⑦ カ) ⑦	道徳 1 学活 1
	(4)「手に入れよう 大事な情報」 災害時の様々な情報が流れる中で、必要な情報を状況に応じて適切に入手・伝達できるようにする。災害等で、着衣が濡れた状態で溺れたとき、溺れている人を発見したときの対処を学び実践する。	4	ウ) ③⑤	体育 2 社会 2
	(5)「やってみよう 今 できること」 大震災発生後の国内外からの支援について知り、今後自分たちができることを考える。	2	オ) ② カ) ②⑤	道徳 1 家庭 1
6	(1)「災害から身を守るには」	5	ア) ③イ) ④	理科 1

	起こりうる災害について知るとともに、それらの災害から身を守る方法を考える。		⑤ ウ) ③ ⑤ エ) ① ② ③ ④ カ) ③	学活 1 総合 3
	(2) 「これからのまちづくり」 復興と防災に向けた自治体の取組を調べ、地域のまちづくりを考える。	3	オ) ⑥ ⑦ カ) ③ ⑤	社会 1 総合 2
	(3) 「復興に向けて」 災害から復興してきた先人の知恵や努力等の伝承を知り、災害を教訓として生かしていこうとする態度を育てる。	3	ア) ① ② イ) ① ② カ) ④ ⑤ ⑦	社会 1 学活 2
	(4) 「ボランティア」 ボランティアの活動について調べ、助け合うことの大切さや地域の人と協力することの重要性を考える。	4	オ) ② ③ カ) ② ③ ⑤	総合 2 道徳 2
	(5) 「身近な防災対策」 住環境における防災対策を考える。	5	イ) ③ ④ ⑤ ⑧ ウ) ⑧	理科 1 家庭 2 総合 1 学活 1
特別 支援	(1) 「自然のしくみを知ろう」 自然が引き起こす変化や災害について知る。	2	ア) ①	生活単元 2
	(2) 「防災グッズを知ろう」 災害時に役立つ準備があることを知り、作れるものは作ってみる。	8	イ) ⑦ ⑧	家庭 4 生活単元 4
	(3) 「自分の身は自分で守ろう」 災害時、動転せずに適切な行動が取れるように練習する。	10	ウ) ③ ⑤	体育 5 日常 5
	(4) 「自分の住所と電話番号を知り、話せるようになろう」 自分についての基本的な情報を伝えられるスキルを身に付ける。	10	エ) ④	総合 6 生活単元 4
	(5) 「ありがとうを伝えあおう」 災害時の助け合いの中で感謝の気持ちの大切さを知り行動する。	2	オ) ⑥	道徳 2
	(6) 「地域について知ろう」 災害時、助け合いの基礎となる自分の住んでいる地域の人々に関心をもつ。	4	カ) ②	総合 4

防災安全科の各学年の単元は、次年度において授業実践を行いながら検討していく。

(4) 防災グランドデザインの作成にあたって

研究開発学校制度における目的は、新しい教育課程・指導方法の開発である。よって、防災安全科を創設したことによる教育課程全体の効果を検証していかなければならない。

そのために、まずは、各学年で作成した防災単元を教科等全体の年間指導計画（グランドデザイン）に位置付け、防災単元と他教科等との関連を図っていくこととする。

◆防災グランドデザイン作成の手順

- (1) 枠の中に防災単元の内容を記入する。単元名、時数、教科等からの移行時数、内容
- (2) 設定した防災単元を時期や順序を考えながら表の中に位置付ける。
- (3) 関連する教科等をもとのグランドデザインから貼り付ける。
- (4) 移行した教科等をもとの単元と設定した防災単元を←で結ぶ。
- (5) 各教科等に内容がない部分の時数については、その教科等に空白の枠を作って、←で結ぶ。
- (6) 見直し・修正を行う。

◆見直し・修正のポイント

Q) 内容が防災安全科に移行したので、教科の単元の中では扱わなくてもいいのか。評価もせず、テストのときもその内容の部分は空欄でいいのか。

A) そうではなく、防災安全科に内容を移行して扱うことにより、その内容の理解が深まる。よって、教科の中で扱わなくても、すでに深まっているようにするため、以下の点を押さえるようにする。

(1) 防災単元と各教科等をつなぐ線の傾きを見る。

- ・傾きが小さい＝時期が近い
- ・傾きが大きい＝時期が離れすぎている → 傾きが少なくなるように時期を変える

(2) 順序性を見る。

①前が防災単元で後が他教科の場合

・すでに防災単元で学習しているので、その部分を学習しなくても影響は少ない。

②前が他教科で後が防災単元の場合

・防災単元に移行した内容が空白になってしまう→防災単元または教科の時期を変える
このように、関連する教科・領域全体を見ていかなければならない。

